

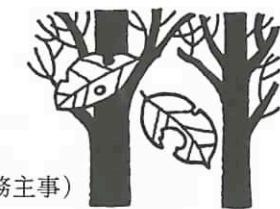


目 次

特集 「読書を語る」	2	シリーズ「人物・いま」	12
シリーズ「中学校訪問」	5	シリーズ「クラブ紹介」	13
研究室訪問	6	夏期実習	14
公開講座	7	四高専吹奏楽部合同演奏会	15
体育祭	8	英語弁論大会	15
九州地区高専大会等	10	小文化祭	15
全国高専体育大会	11	ロボットコンテスト・プログラミングコンテスト・編集後記	16

特集

読書を語る



出席者 中本 潔(英語担当) 宮川英明(図書館長)
焼山廣志(国語担当) 岩本晃代(国語担当)

司会 昔から、秋は、「灯火親しむの候」、あるいは「読書の秋」とか言って、1年中で一番本を読むに適した季節と言われているようです。そこで、きょうは、読書をテーマにお話をうかがいたいと思います。まず最初は、最近読まれた本の中で、感銘を受けた本についておうかがいします。館長からいかがでしょう。



宮川 ベストセラーになっている五木寛之の「生きるヒント」(角川文庫)を読んだのですが、非常によかったです。彼が親鸞のことを書いた本を読んだのがきっかけで読んでみたのですが、高校生の子供にも読むよう勧めましたところ、1日で読みあげて、すなおに共感できた、と言っていました。

司会 どんな本ですか。

宮川 一言で言えば、現代は、テレビなどで、ことさら「明るさ」がもてはやされ、「明るさ」こそ一番、「明るさ」こそ善という風潮があるが、人生というものは、本当はそうではなく、暗いものなんだ、ということを基調低音にしたエッセイで、若い人にはぴったりの本だ、と思います。

焼山 五木寛之は、私と同郷の筑後(八女)の人なので関心はあるんですが、これまであまり好きではありませんでした。しかし、「生きるヒント」は面白く読みました。年輪を重ねて、若い頃の嫌味な部分が取れたように思います。

中本 嫌味な部分とは。

焼山 筑後の土着的なところを意識的に避けていたように思います。自分の中に流れているものをことさら拒否する姿勢を感じました。ところが、今は、それを素直に受け入れているように思います。

司会 五木寛之は、世代的には中本先生と近いのではありませんか。

中本 残念ながら、五木はほとんど読んだことがありません。この夏、私は阿川弘之の「志賀直哉」(岩波書店)を読みました。「図書」に連載されているとき読んでいたのですが、本になったのを機に、再度読みなおしてみて、考証の行き届いているのに改めて感心しました。

この本を手掛かりに、志賀直哉の全集に挑戦したくなりました。

司会 志賀直哉は私も好きです。「網走まで」「剃刀」などは印象深いですね。

中本 阿川氏は「梵火」を褒めています。「梵火」は国語の教科書にも載っているのではありませんか。

焼山 載っています。

司会 焼山先生が勧められる本はなんでしょう。

焼山 私は、学生の図書委員を連れて、ブック・ハントティングを行ったため、立場上、彼らが選んだ本を読んでいたら、何となく雑誌たる読書に終始して、いま急には推薦図書も浮かんでこないような有様です。



岩本 私は、有名作家の作品ではないですが、「心に残るとっておきの話」(潮文社)を挙げたいと思います。普通の人が日常生活の中で感激したことを綴ったものですが、文筆を業としている人のものにはない、素朴でピュアなを感じました。学生がこれを読んだら、自分も何か書いてみようという気になるのではないかでしょうか。読むことによって書くことを促されるような本です。もう1冊挙げますと、学生にぜひエンチアンの「ワイルド・スワン」(講談社)を勧めたいと思います。波乱にとんだ、一人の女性の人生をたどることで、期せずして、中国の歴史が生の形で、実感できるようになっています。学校や教科書では教わらない歴史の実相を知る、これも読書の醍醐味ではないでしょうか。いずれもベストセラーなので、店頭に行けば、たくさん並んでいます。

司会 現代はノンフィクションの時代だ、とか申しますが、これまで挙げられた本がいずれも小説ではないというのも面白い符丁です。私もみなさんにならってノンフィクションを挙げさせてもらいます。芥川賞作家・辯見庸の「もの食う人びと」(共同通信社)です。

人間にとて食べるという行為は切っても切れない存在です。世界のあちこちのいろいろな食生活が紹介されます。難民が食べる半ば腐った食べ物、従軍慰安婦が日本兵からもらって屈辱とともに流し込んだかけう

どん、失脚した元大統領の以外に質素な食生活など。食べるによって生きていくことのできない人間の悲しみ、おかしみみたいなものがじみ出ている実に刺激的な本です。

岩本 私も読みましたが、人間存在の原点を感じました。

中本 昨年あたりから評判になっている「マディソン郡の橋」はどなたか読まれましたか。

焼山 読みましたけど、なぜあんなに評判になったか、理解に苦しむような本でした。

岩本 分からないといえば、今回の芥川賞作品も分かりにくいですね。鮪と恋愛する夢を扱っているのですが、私には良さが分かりませんでした。

司会 私もあまりに現実離れしたものは苦手です。

岩本 何年か前の直木賞作家ですが、山田詠美の「晩年の子供」(講談社)はお勧めです。教科書にも採用されています。

宮川 岩本先生に勧められて私も読みましたが、感性の豊かさに感動しました。一気に読みました。

岩本 文章が正確で美しいんですよ。点の一つにまで神経が行き届いた、すばらしい文章です。

司会 ところで、最近、よく「活字離れ」という言葉を耳にしますが、それについてはどんなふうに考えられますか。

焼山 確かに、本を読まなくなつた、とよく言われますが、与え方しだいでは必ずしもそうとは言えないのではないか、と思います。と言いますが、先日、ある高専に行ってきましたが、図書館がすごく盛況なのです。見ると、専門書の類は、奥のほうに並んでいて、一番目に付きやすいところには、一般書ばかりなのです。しかも、先生好みの名作ではなく、若者向きの本ばかり。それを入れかわり立ちかわり学生が入って来て、読んでいました。自由なサロンの雰囲気を感じました。希望図書もたくさんきました。それを見て、若い人も一概に本が嫌いなわけではない、ということを痛感しました。



宮川 館長としては、耳が痛いですね。平成4年度の統計ですが、全国高専の1冊あたりの平均単価が約3800円、短期大学が約2700円、公立図書館が2000円だ、ということです。この数値を見ても分かるとおり、各高専とも、高価で、立派な本を買っているわけです。ところが、学生は見向きもしてくれない。つまり、買い与える先生とニーズの間に大きな隔たりがあるわけです。学生の要求にもっと耳を傾ける必要があるようですね。本を選択

する場合は、頭を柔軟にして、学生の目線で選ぶように心がけなければいけないようです。どうしても、図書館はこうあるべきだという観点が先立って、どうしたら学生が図書館に足を運んでくれるかという観点が二の次になってしまいます。

焼山 かなり大胆な選択がなされているようでした。身近な実用書の類がずらりと並んでいました。

宮川 本に親しむという点から言えば、最初はそのような言わば軽いものから入って行くことも、大切なかもしれませんね。

岩本 あるクラスで、今年の夏どんな本を読んだか、聞いてみました。ところが、ほとんど私が知らない本ばかりでした。それほど私たちと学生の間にはギャップがあるんでしょうね。

中本 私たちの時代と違って、現代は、ものすごくジャンルが広がっている、とも言えるでしょうね。また、別な見方をすれば、昔、先生や親から、そういう本は机のうえに置くべきではない、あるいは読むべきではない、と言われたような本を今の学生は堂々と読んでいる、と言えるかもしれません。

宮川 この前、ある本を読んでいましたら、日本は、技術立国として、合理性、生産性、科学性を追及するあまり、長編小説のような絶余曲折のあるものは受け付けなくなってきたのではないか、と書いてありました。途中の経過は飛ばして、一足飛びに結論を求める傾向が非常に強い、と言うことでした。そのような風潮の中にあって、どんな本を選定し、どのように読書を定着させていくかは非常にむずかしい問題だと思います。目標はハードであっても、導入はソフトからかな、という気はしています。

司会 持続性がないのは、テレビの影響かもしれませんね。本編の途中にCMが入るのに、頭がすっかり慣れてしまっているわけです。いわば、アナログ的ではなく、デジタル的な思考にならされている、と言えるのではないでしょうか。

中本 うちの子を見ていると、CMになるとすぐチャンネルを変えてしまいます。いくつかの番組をつまみ食いするような見方をするわけです。私には理解できませんけど。一つには、シリーズなものが少ないので、そんな見方ができるかもしれません。どれもこれも喜劇というにはあまりにもお粗末で、人を茶化したようなやつばかりです。現代は、一事が万事、軽薄短小が喜ばれて、重厚長大なものは忌み嫌われているのですかね。



焼山 そんなことはないと思います。この前学生にビデオで「自転車泥棒」を見せたところ、真剣に見ていました。だから、決してシリアスなものを受け付けないわけではないと思います。

中本 表面は、昔に比べると、ずいぶん違うように見えても、内面は、深と静まりかえったものを持っているということでしょうね。安心しました。

宮川 でも、外見からだけ見るかぎり、今の若い人は悩みがないのか、と思うところがあります。私など、17、8歳の頃は、いろいろ深刻な悩みがあって、それを解決する糸口を求めて、本に向かったような気がしますけど。

焼山 悩みはあるけど、悩みがあることを表に出したがらないのではないかでしょうか。他人から疎外されるのが怖くて。最近の子供は必要以上に周りの目を意識しているような気がします。

宮川 そういえば、うちの子も、みんなが見ているテレビ番組を見てないと、友達の輪の中に入れてもらえない、と言っていました。

岩本 読書についても、そのような現代の風潮がマイナスに働いている気があります。学生に聞きますと、多くが、読書は良いことだ、できれば自分も読みたい、と言います。ただ、読書が知的な面をもつがゆえに、友達からスノップと見られ、敬遠されるのが怖いみたいです。だから、漫画は読むけど、本は読まない。

司会 漫画については、どんなふうにお考えですか。

焼山 作品しだいででしょうね。漫画は最近質が上がってきています。非常に良いものもあります。

中本 私の友人に司書をしている人がいますが、漫画を毛嫌いしていたそうです。しかし、時代を考えて、漫画を図書館にいれることにし、かたっぱしから漫画を読んだら、良いやつが結構あった、と言ってました。どうしても、われわれ大人は、偏見を持ちがちです。例えば、ピートルズが登場したとき、若者は拍手喝采で迎えたのに、大人はほとんど拒絶反応を起こしました。でも、今やピートルズは古典です。

焼山 ただ、名作を漫画にしたものがありますが、例えば、「源氏物語」を漫画で読んで、「源氏物語」を読んだ気になってほしくありませんね。最初は、漫画にしても、興味を覚えたら、ぜひ原典をひもといてほしい、と思います。ソフトからはいってハードに至るというわけです。漫画の世界と本の世界が質的にどんなに違うかということを、学生にぜひ知ってもらいたいですね。

岩本 名作を翻案して漫画にした場合、漫画家の解釈によって、イメージが固定するのが怖いですね。

宮川 微分積分などを漫画で分かりやすく説明したものがありますが、あれにもやはり限界があって、感心できないことが多いですね。例えば、量子の概念などを漫画で勉強して、固定観念を持ってほしくありません。

岩本 私は「赤毛のアン」を学生にぜひ読んでほしいと思いますが、最初、映画やアニメの漫画からはいらないでほしいですね。詩などの感想文を書かせますと、感受性の豊かさをうかがわせるものが結構あって驚きます。その豊かな感受性をもって、生の「赤毛のアン」という本に接してもらいたいと思います。

司会 最後に、学生へのアドバイスを一言ずつお願いしたいと思います。

宮川 私はポケットの中に文庫本を入れておいて、ちょっとした空き時間などに読むようにしています。本と密着していることによって、本を身近に感じ、抵抗なく本の世界に入っていくことができるようになります。学生にとっても、文章を書く機会は、今も、これからも、多いと思いますが、文章を書く作業の元になっているのは、やはり、本を読むという作業ではないか、と思います。本を読んでいないと、どうしても表現が貧弱になります。いろいろな機会をみつけ、時間を作つて、本を読むようにしてほしい、と思います。

岩本 私は、眠る前には必ず専門書以外の本を読むようにしています。本を開いたら1、2頁で眠ってしまうことが多いのですが、それでも1ヶ月のうちに結構読みます。ある決まった時間を確保して、日課として、少しでも読むようにすることを勧めます。

中本 本は、ためになるから読むのではなく、面白いから、楽しいから読むようにしてもらいたいですね。本は読んでみると、本当に面白いんです。ですから、この本を読むと面白いだろうな、と思いながら、読んでほしいですね。映画を見た人が楽しそうに映画の話をしていると、自分も見たくなりますが、あんな感じで、先生や友達が面白いという本から手はじめに読んでもらえれば、と思います。

焼山 読書も一つの出会いだ、と思いますので、好い人の出会いを求めるように、自分の感性にあった本に巡り合えるよう、がむしゃらでなくともいいから、ゆっくり焦らずに本と接する努力を続けてほしい、と思います。

司会 きょうは本当にありがとうございました。



シリーズ

中学校訪問

——荒尾第三中学校(荒尾市)——

Q まず荒尾第三中学
校の沿革からお話を聞
かせてください。

A 本校は昭和22年に
開校され、現在のよう
な校舎になったのは昭
和62年のことです。昭
和30年代は農村地域と
三池炭鉱の一大社宅地
域で構成され、生徒数



福永浩平 校長
も1500名余りでしたが、現在では生徒数313名、学級数
は10学級となっております。

Q 次に具体的な教育目標についてお聞かせください。

A 学校教育は、本来子どもの側にたっているものであ
り、子どもに人間として生きていくために必要な基礎的
基本的な内容を身に付けさせ、一人一人の個性や可能性
を伸長させることをねらいとしていると思います。そこで
本校では、教育目標を「人間尊重の精神をふまえ、豊
かな心、磨かれた知性を身につけ、心身共に健康で個性
豊かな生徒の育成を目指す。」と設定しました。そして
生徒の姿として、

- 自主的で誠実に実践努力する生徒
- 心身共に健康で創造性豊かな生徒
- 勤労を愛し、協力し合い、ともに伸びる喜びを味
わう生徒

の3つの目標を掲げています。それは校訓とも関連して
おり、教師も生徒も「自主・創造・協力」の姿を求め続
けていけるようにしています。

Q 三中の特徴としてはどんなものが挙げられますか。

A まずは、なんと言っても、三中は活気が満ちあふれ
ていることです。先生方のやる気と意欲が生徒に大いに
影響しているようです。また、生徒会活動が充実して
おり、遠足や体育祭では企画・立案から運営・実施まで生
徒達自身の手でやり遂げました。そして、国際交流にも
力を入れており、諸外国との文通を行ったり、高専の留
学生をお招きして交流パーティを催したりしてきており
ます。その他の特徴としては敷地が広く、施設に恵まれ
ていることです。空いた教室は生徒会の話合いの場や教
育相談の場、更にはコンピュータ室に利用しています。

Q 情報処理の教育はどのように推進されていますか。

A 平成3年度末にコンピュータ教室が完成し、平成4

年度から二通りの方法で推進してきました。一つは、
学級担任によるリテラシイを目的としたもので、一年生
は图形、二年生は文章の作成に取り組んでいます。もう
一つは三年生を対象としたもので、HYPER CUBE 2
からBASICまで幅広く、生徒の興味や関心に応じて指
導しております。

Q 最近、中学生の考え方は変わってきていますか。

A 基本的にはそう大きく変わったと考えていません。
しかし、子どもを取り巻く社会の変化に著しいものがあ
り、中学生の行動や心理に影響を与えていることは確
かです。生徒と接していると、情熱、やる気、あるいは夢
をもつていて目標に向かい努力しようとする意欲は強く
感じられます。今後の教育の中で伝統として伸ばし変
えてはならないもの、発展の妨げとなり変えねばならない
ものを指導者は明確につかむ必要があるのではと感じ
ています。学校という集団の中で個性をいかに生かすかが
学校に求められ、期待されていることと思っています。

Q 最後に、高専の印象や要望をお聞かせください。

A 近くの学校なので希望者が多く、しかも保護者に卒
業生がおられるので、高専には大変親しみをもっています。
体験入学では、具体的にどんな勉強をするのかどんな
部活動ができるのか、がわかり大いに役だっています。
現在、これまでの100%の合格可能性に基づく指導から、
生徒の意欲や努力を重視する指導に転換を計っています。
卒業生の方々が実際の就職先でどんな仕事をしてお
られるのか、またどんな期待をもたれているか、わかれ
ばより具体的な進路指導ができるので、そのような資料
が得られれば幸いです。

校門から中庭に入ると、体育馆そばに建つ白色の影像
が目にとまる。中庭をはさみ、右手に管理室、教室、図
書室、技術家庭科室等、左手に体育馆、教室等が連なり、
両棟は正面2階の渡り廊下で結ばれている。その下を抜
けると、隅々までよく整備された広いグラウンドに出る。

学期始めの多忙な折にもかかわらず、お会いして丁寧
なお答えをいただいた福永浩平校長に感謝いたします。

(9月2日訪問 聞き手 玉野 實)

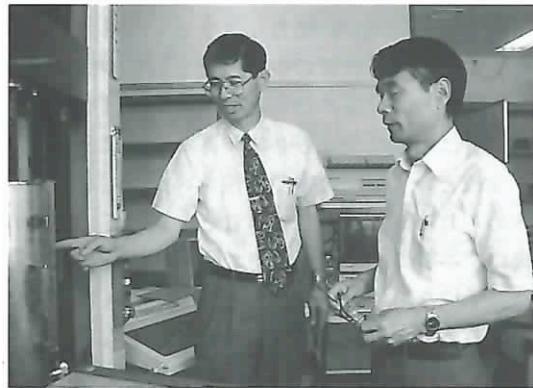


シリーズ 研究室訪問

今年学位を取得された2人の先生を訪ねました。今頃は卒業研究に精を出しているであろう学生を念頭に、のことについてお話をうかがいました。

①学位論文の題名、授与大学名、日付、②論文の概要、③研究の背景、きっかけ、④何を目指してどのように進めているか、⑤面白さ、⑥卒研生へのアドバイス。
(聞き手 石井康太郎)

宮川英明先生(共通専門)



山下俊雄先生(建築学科)



- ① 金属材料の高温変形挙動の予測に関する研究、九州大学、7月27日付け。
- ② 金属材料を引張って変形を与えると応力が発生する。この変形応力の予測は、これまで定常状態のものに限られていた。そこで、アルミ系合金について高温変形機構のモデルを案出し、任意の変形経路による応力を予測できること、またクリープ曲線も予測できることを示した。
- ③ X線を使って材料物性の研究を十数年間行ったあと、7年前、内地留学を機にこの研究に着手した。
- ④ 将来の応用分野として「制御圧延」がある。圧延するときに、形状と共に材質も制御しようとするものである。そのために、どのような材料にも使えるような汎用性の高い予測法の確立を目指している。
- ⑤ 実測で得た材料の特性をうまく説明できるようなモデルを求めて長いあいだ模索していたが、ある夜ふと目覚めてメモしたアイデアが発想の転換となり、今のモデルができた。予測モデルによる数値計算結果がコンピュータ画面に刻々と描かれていく。それが実際の引張り試験で得られた曲線と一致したときは感激した。推理小説のような楽しみがある。
- ⑥ 本校生の能力は高いのだから、実験でも、「グラフを書いたら終り」ではなく、データの意味を読み取る努力をしてほしい。低学年のときから自分で考える勉強をして、基礎学力をつけてもらいたい。

(なお、宮川先生は1993年度日本金属学会論文賞を受賞されました。)

公開講座

楽しい電子工作教室

期日：平成6年7月25日～7月26日

対象者：中学生 参加者：21名

小さいころ、壊れた電気製品を解体して遊んでいて、ハンダ付けされた部品がわからなかつたことがあります。今回その部品の名前を知ることができ、参加して本当によかったです。

(延命中学3年生)



やさしい化学実験講座

期日：平成6年7月26日～7月27日

対象者：中学生 参加者：22名

先生や高専生の方がやさしくわかりやすく教えてくださったので、とてもよい2日間を過ごせた。いろいろなことが、自分のためになったと思います。高専は専門だけあって実験器具などが多く、初めて見たいいろいろなものに驚かされました。

(田隈中学3年生)



お母さんのためのワープロ教室

期日：平成6年7月27日～7月29日

対象者：主婦 参加者：14名

私にはとうてい無理、難しい、わからない、できない、なんて思っていたのに、いまワープロで感想文を作成しているとは、とても夢みたいです。

学生時代にもどったようで、楽しく過ごすことができました。

(主婦)



パソコンお絵描き講座

期日：平成6年8月1日～8月2日

対象者：中学生 参加者：26名

今回の受講で、マウスに慣れることができ、うれしかった。また、色やパターン、一点透視図法などで自由に絵が描けるのには驚いた。

この種のパソコンがほしかったので、使うことができて幸せな2日間だった。

(岱明中学2年生)





激動 五大魂!



涉外 門本和久(5A)

今回の体育祭は「激動五大魂」のスローガンのもと、学生一丸となり計画を進めました。

準備のときから試行錯誤の連続でしたが、ポスター・パンフレット、そして市中パレードも良いで、当日はご来賓の方々、多くの観客の皆さんに我々学生の激動する魂を見ていただき、無事終えることができました。お疲れさまでした。

第18回体育祭/9月18日(日)

第18回体育祭が、9月18日全学生の企画・参加のもとに行われました。5年生まで揃った電子情報工学科を加えた5学科の5大魂が、萩尾台で力と技と華を競いあいました。



実行委員長 奥菌 剛(5M)

五つの激動する魂達は、それぞれの伝統を貫きつつも、この萩尾台のグラウンドに「アイデア」の光を放ち、雨雲をも吹き飛ばしてしまいました。

激動し過ぎるあまり、多少のトラブルもありましたが、皆さんの理解があって、無事体育祭を終えることができました。

皆さんのお力添えに改めて感謝いたします。

学生会長 安井光洋(5A)

今までの学生会行事をことごとく雨にしてしまって、いつのまにか自分を「雨男」と言う人が多くなっていました。そのため、今回も絶対に雨が降ると言われ続け、当日が来た。いつもとは違う絶好の体育祭日より、自分が「雨男」ではないことを証明できて本当に良かった。



優勝	建築学科
敢闘賞	電気工学科 工業化学科
応援賞	建築学科

九州地区高専体育大会

すばらしい成績に、熱い拍手を!

平成6年度の九州地区高専体育大会が下記のとおり行われました。

バトミントン部が3年連続優勝、バスケットボール部が2年連続優勝、そして6種目の個人優勝などすばらしい成績を残しました。主な成績は次のとおりです。

■第31回九州地区国立工業高等専門学校体育大会成績

7月22日(金)~24日(日) 主管校／大分高専 担当校／有明高専・熊本電波高専

〈大分高専担当種目〉

陸上競技		男子100M平泳	1位 3E 米田	柔道
団体	3位	男子400M・R	2位	団体予選リーグ敗退
男子100M	2位 4A 渋谷	(4A 中川・3E 米田・5I 別府・5A 小野)	軽量級	2位 2M 馬田
男子200M	3位 4A 松尾	男子400M・×R	3位	重量級
男子1500M	2位 4A 坂口	(2E 田中・3E 米田・3E 田中・4A 中川)	バレーボール	3位 3M 三浦
男子4×100M・R	2位	男子800M自由形	2位 5A 小野	予選リーグ敗退
(3C 重行・4A 松尾・4M 古川・4A 渋谷)		男子200M平泳	1位 3E 米田	テニス
男子走高跳	2位 3I 山田			団体2回戦敗退
男子砲丸投	1位 4A 渋谷	〈有明高専担当種目〉		女子ダブルス 1位 5I 橋本・5M 三宅
男子やり投	3位 3I 山田	硬式野球	準優勝	女子シングルス 3位 5M 三宅
女子砲丸投	3位 3A 井上	バスケットボール	優勝	3位 5I 橋本
ソフトテニス		剣道		
予選リーグ敗退		団体2位		
バトミントン		個人戦男子	1位 4A 大塚	
団体優勝		卓球		
男子シングルス	2位 5E 城戸	団体予選敗退		
	3位 5E 中田 5E 釜田			
女子シングルス	2位 2A 永松			
女子ダブルス	1位 4A 平田・2A 永松	〈熊本電波高専担当種目〉		
	2位 4C 南阿・4A 岡部	サッカー	1回戦敗退	
水泳				
総合	準優勝			



全国高専体育大会

女子奮闘、ダブルスで全国優勝!

平成6年度全国高専体育大会等が、下記のとおり行われました。

テニス女子ダブルスで橋本・三宅組が、バトミントン女子ダブルスで平田・永松組が優勝しました。主な成績は次のとおりです。

■第14回西日本地区高等専門学校水泳競技大会

7月28日(木)~29日(金) 主管校 高松高専
男子200M平泳 2位 3E 米田
男子100M平泳 2位 3E 米田

■第29回全国高等専門学校体育大会

8月6日(土)~7日(日) 主管校 鶴岡高専
バスケットボール
予選リーグ敗退

陸上競技
男子砲丸投 3位 4A 渋谷
男子400M・R 3位
(3C 重行・4A 松尾・4M 古川・4A 渋谷)

剣道
個人戦男子 3位 4A 大塚

■第17回全国高等学校テニス選手権大会

8月5日(金)~7日(日) 主管校 八戸高専
女子ダブルス 1位 5I 橋本・5M 三宅

■第18回全国高等専門学校バドミントン選手権大会

8月6日(土)~7日(日) 主管校 八戸高専
団体 2位
女子シングルス 2位 2A 永松
女子ダブルス 1位 4A 平田・2A 永松



最後の高専大会だったのですが、悔いの残らないよう私なりに精一杯がんばりました。おかげで、すばらしい結果で最後の部活を“有終の美”で飾ることができました。
5I 橋本 真紀



昨年は病気のため出場することができず悔やしい思いをしましたが、今年は九州・全国と良い成績が残せたのでとてもうれしかったです。来年も永松さんと一緒にがんばっていきたいです。
2A 永松 瑞穂

4年目にしてやっとダブルスで優勝できました。一時期、部活をやめようと思った時期があったけれど、先輩が説いてくれました。来年も永松さんと一緒にがんばりたいです。
4A 平田 宏美

シリーズ 人物・いま

全国高等専門学校テニス選手権大会において平成5年度はシングルス、平成6年度はダブルスと2年連続して優勝された橋本真紀(5I)さんとイランからの女性留学生第1号HONAR MANAさんに話を聞きました。



橋本真紀 (5I)



ホナル・マナ (3I)

Q 全国大会の印象はどうですか？

A 九州地区大会より何倍も見応えがあります。部活をやっている人は、少なくとも1回はがんばって出場するといい経験になると思います。

Q 高専に入学してからテニスを始めたのですか？

A はい、高専に入学してからテニスを始めました。中学の時はバレーボールをやっていました。

Q 女子の場合、1位にならないと全国大会へ出場できないと聞いていますが、わずか2年ぐらいで全国大会へ出場できるものなのですか？

A 高専のテニス部の女子の人数は普通高校に比べるとかなり少なく、そのために男子ほどレベルが高くないことが挙げられます。さらに、自分が他の人より少し多くの練習したことと、それに運が半分くらいあると思います。

Q 5年間のクラブ活動で一番印象に残っていることは何ですか？

A やはり、全国大会へ3回出場できましたこと。

Q 一番苦しかったことと楽しかったことは何ですか？

A 苦しかったことは、暑さと寒さです。特にいやだったのは、夏の“日焼け”です。楽しかったことは、いろんな人と試合をしたり、話をしたこと。

Q テニス部は7年連続して全国大会へ出場し、いい成績を残していますが、どういうクラブですか？

A 日祭日も休まず、せっせと努力するクラブです。一つの目標に向かってみんながんばっています。

Q クラブの雰囲気はどうですか？

A なごやかです。女子が多くなったので、普通高校みたいな感じになったと思います。

Q 後輩に望むことは？

A 全国大会へ毎年出場してほしいと思います。もし、それがダメでも絶対悔いの残らぬようがんばってほしいです。



シリーズ クラブ紹介

漫画研究部

白石(4A)、有田(3C)、佐藤(4A)、野田(4A)、黒川(4A)さんに、話をうかがいました。

○部員数は？

15名で、女子が13人、男子が2人です。

○主な活動は？

日常的には、部室に来たら漫画ということはあまりこだわらず、一枚の絵を描くことを目標にしています。毎日6時頃までやっています。

○漫画甲子園について？

平成5年は部員5人が参加しました。高専生は3年生までです。1チーム5人で、予選は240校、本選に30校が選ばれて決勝戦が行われました。一こま漫画で、テーマを与えられると、自分たちのイメージで、6時間位かけて1枚の絵を描きました。そこで20校(15枚+敗者復活5校)に選ばれました。今後も参加していきたいと思っています。

○文化部はあまり活発ではないと言われたりしますが？

絵や音楽の好きな人は自分でやればいいので、わざわざクラブに入る必要はないのです。でも、それでは上達しないし、楽しくない。お互いに批評しあって向上します。そこにクラブの存在意義があると思うのです。

○部誌は作らないのですか？

“大ショック”という部誌を20部ほど作っています。今年の小文化祭には第4号を発行する予定です。

○アピールすることは？

私たちは漫画にこだわっていません。ある意味で美術部に似ているかもしれません。漫画を読むだけの人もいますが、それだけではなく、自由な題材で絵を描くことが主体のクラブです。

○最後に一言？

たまには絵を描くことも楽しいことなので、絵を描いてみようかなと思われる人は是非気軽にやってください。

●本当に楽しそうな女子学生さんたちでした。今後の発展を期待します。



自動車工学研究部

宮川君(4M)と山下君(4M)に、話をうかがいました。

○部員数は？

12人です。女子部員は1人です。5人位が主力となって運営しています。

○主な活動は？

バイクのメンテナンスやエンジンの分解等で、毎週木曜日に集まるようにしています。

○エコノパワーレース(エコラン)とは？

ホンダの主催で、20kmを走り、どれ位のガソリンで走ったかを1ℓに換算して、距離を出すレースです。(普通車で14.5kmだそうです)毎年出場することを目標としています。平成4年度はチェインのトラブルでリタイアしましたが、平成5年は、有明機械(株)で場所を借り、風防をFRPで作りました。走行距離は118kmでした。記録的にはよくなかったのですが、デザイン賞を得ました。ところが部員が早くかえってしまって、受賞式にいなかったために受賞を逃してしまいました。今年は8月7日に行われ走行距離は325kmでした。大会記録は九州では昨年の1,100kmです。この記録は夢ですが、当面600kmをめざしてがんばろうと思っています。

○高専祭や小文化祭では？

ゴーカートや左右にエンジンが2つ付いたユーホーマシン等のデモを行いますが、今年はいつもと違ったゴーカートみたいなものを作りたいと思います。

○アピールすることは？

奇抜なアイデアの持ち主、実行力のある人、いざという時に頼りになれる人、ただいま募集中です。

○最後に一言？

体育系は自分の精神的なものを鍛えたり、体づくりをしますが、文化系では、筋が通っていれば、好きなことをしてよいのではないか。

●クラブについての“考え方”を持っておられて、頼もしいと思いました。



夏期実習

IC開発を体験

4I 松尾由美

8月1日から12日までの2週間、熊本にあるNECアイシーマイコンシステムの九州LSI開発センターで実習を受けた。この開発センターは、マイクロコンピュータ部門、メモリ部門、ASSP部門、ASIC部門、CAD部門に分かれ、システム設計から回路設計、マスクパターン設計、評価まで一貫した開発・設計業務を行っている。私はメモリ第2開発部に配属され、新規設計の大容量メモリの一部であるアドレスバッファ回路について論理検証を行った。

最初の1週間は、メモリセルの構造やトランジスタの動作、回路設計用WSの操作方法など、検証を行うにあたっての基礎を学んだ。その後は、実際に回路図を入力し、その論理検証を行った。

大容量メモリの回路図は画面にすると新聞紙3枚分ほどのもので、私が担当した回路はそのごく一部である。そのごく一部分の検証でも大変だったので、新聞紙3枚もの広さの回路図全ての検証をするには大変な時間がかかるだろうと思った。また検証が、どのような入力でも誤動作しないか、遅延時間に影響されないかなど、あらゆる方向から行われることには驚かされた。

今回の検証結果は実際の業務に採用されるということだったので、実習生とはいえ企業の一員として責任重大であったが、とてもやりがいがあった。最終日に報告書を提出し承認のサインをいただいた時は、一つの仕事をやり遂げたという満足感でいっぱいだった。

今回の実習では、メモリに関する知識を得たばかりでなく、企業で仕事を受け持つたら、同時に責任を持ち、その責任を果たさなければならない、ということも知らされた。実習で学んだことを今後の学生生活に活かしたいと思っている。



カヤバの実習で学んだこと

4C 和田智宏

7月25日から8月5日までの期間、カヤバ工業(株)岐阜北工場で実習を行った。ここでは、自動車用ショックアブソーバ(以下SA)、パワーステアリングなどを生産している。SAは月産330万本で、単一工場では世界一の生産量を誇っており、国産の二輪のフロントフォーク及び、四輪車のSAのほとんどがここで生産されている。

私は、自動車技術研究所の基礎研究室へ配属され、コンピュータシミュレーションによる、車両の挙動解析を行った。この目的は、主にフリクション(摺動抵抗)が、自動車の乗心地にどのような影響を及ぼすかを調べるためにあった。また、懸下ばねの硬さ、SAの減衰力、タイヤの硬さなどによる影響を調べた。この結果、どの項目も、減少させ過ぎたり、増加させ過ぎると、乗心地に悪影響を与えることがわかり、それぞれのバランスが重要であるということに気づいた。

今回の実習で、SAがどのような段階を経て設計されていくのか、ということが良くわかった。私が行ったシミュレーションは、その土台の部分である。このような小さなことの積み重ねがあるからこそ、十分な性能を持った製品が生み出されるのである。このことは、全ての事柄にも当てはまることだと思う。

また、この工場でも、渴水のために操業を停止することがあるかもしれない、ということを聞いて、今年は日本中が水不足であるということを実感した。

SAは、普段何気なく乗っている、自動車の部品だが、ブレーキ、クラッチなどと同じく、重要な保安部品の一つである。このような重要な部品を研究・開発しているところで実習を行うことができて良かったと思う。



第27回四高専吹奏楽部合同演奏会

今年の合同演奏会は北九州高専の担当で、8月11日(木)、16:00より小倉市民会館において催されました。今回の参加者は総勢116名であり、本校からは43名が参加しました。これに先立って、8月6日より北九州高専で合宿し、演奏会前の強化練習を行いました。また、今年は開演時刻を2時間繰り上げて午後4時とし、小・中学生の入場者増加を期待したのですが、結果的にはあまり効果がなく、入場者数は350名程度にとどまりました。

演奏会は例年どおり3部構成で、1部：オリジナル、2部：ポピュラー、3部：クラシックとなっており、特に3部は、明治学園の川野先生を客演指揮に迎え、軽騎兵序曲、組曲「惑星」より火星及び木星を116名の大編成バンドで演奏し、近年にない聴きごたえのあるステージとなり、四高専の部員が結束したときの迫力をあらためて感じました。

次回は、久留米高専の担当になりますが、合宿人数の制限など幾多の問題があり、最善の方法が模索されている状況です。

英語弁論大会

第27回英語弁論大会が平成6年7月28日鹿児島高専で行われ、有明高専からは私と4年建築学科の白石さんが参加しました。大会は1、2年生によるレシテーションの部門と主に上学期によるスピーチの部門とに分かれています。二人の外国人と一人の日本人の審査員によって審査が行われました。発音、動作発表態度、その他約十項目により点数がつき、その合計点の高い者から順位をつけられます。

優勝はスピーチ、レシテーション両部門共に熊本電波高専の方で私たちとはスピーチに参加したのですが、練習不足による未熟さと他校のレベルの高さとで入賞することはできませんでした。しかし、大勢の人の前に立って意見を述べる機会を持てたことは貴重な体験でありますし、また大会の前日にはホテルで懇親会が開かれ、他の高専の方とも話をすることもできました。そのため、当日も楽しい雰囲気で大会を迎えることができ、楽しい時間を過ごすことができました。

英語が好きな方、興味がある方は来年参加してみてください。3年後には有明高専で開かれるそうです。

(4A 水谷博子)

本冊子中M・Eなどとあるのは、次の学科を意味するものです。

M(機械工学科)、E(電気工学科)、I(電子情報工学科)、C(工業化学科)、A(建築学科)

小文化祭

秋晴れの一日、小文化祭が行われた。文化祭の目玉である講演の講師には本校の2期生池田氏が招かれた。学生も先輩の言葉にじっと耳を傾けていた。

期日 11月2日(水)

午前の部

文化講演

演題「時代を読む、時代を生きる」

講師 池田知隆氏

略歴 1969年 有明高専電気工学科卒業

1973年 早稲田大学政治経済学部卒業

1973年 毎日新聞社入社

著書「新聞記者」「理想のゆくえ」他

プラスバンド演奏

午後の部

文化系クラブ展示

OB文化セミナー

バンド演奏



動く大蛇山 — 子ども教室を指導 —

期日：平成6年8月24日

夏休み期間中、子どもたちや親子を対象にした講座や教室が大牟田市内の各公民館で開かれたが、勝立地区公民館(金子明徳館長)で、同地区内にある有明高専機械工学科の教授と生徒の指導で「動く大蛇山工作教室」が開かれた。教室は子どもたちに、出来上がる楽しさだけでなく、工夫する、協力しあう楽しさも体験してもらおうと、動くおもちゃに挑戦。小学4年生から6年生まで30人が参加した。動く大蛇山はレバーを回すと口を開けた大蛇が、キューピー人形に近づくしかけ、「かませ」を表現する。

大蛇の考案とアクリル板やネジ、レバーなどの材料提供は機械工学科、子どもたちは画用紙や、色紙で大蛇の顔や舌、目玉などを作り、ユニークな顔つきの大蛇を楽しむ子どももいた。

(9月9日付「西日本新聞市民ニュース」より転載)

ロボット

コンテスト

10月16日(日)八代総合体育馆で、今年もNHKアイデア対決ロボットコンテスト九州大会が行われた。テーマは「スペースフライヤー」でフライングデスクを飛ばして得点を競うゲームである。ただし中央に小さなVホールがあって、そこに先に入れたほうが勝ちになるということもあって、競技はVホール狙いに終始した。



「3・2・1・試合終了！ダイナローワーク！」僕たちの「ダイナロー」はその機能を発揮することなく大会を終えた。5カ月間の苦労の結果が惨敗だった。悔しさ、悔めさ、情けなさ、いろいろな気持ちがあり交じり涙が出た。しかし製作技術の未熟さ、他人の意見を聞くことの重要性、メンバーをまとめる難しさなど、学んだことも多かった。僕はまだ3年生、あと2回のチャンスがある。次回も必ず挑戦し、やっぱりロボットをつくりたい。

(ダイナロー号責任者 3E 石橋英紀)



編集後記

「読書の秋」である。そこで、本号では、一般科の先生に読書をテーマに話しあってもらった。昨年の図書館の貸出冊数は3,524冊である。1人平均1年間に3.5冊にしか当たらない。これは全国平均よりかなり低い。これを機会に、学生諸君がもう少し図書館に親しむようになってもらおうとある。最後に朗報を一つ。文部省が主催する学校広報誌コンクールで「有明高専だより」が高専部門の最優秀賞に選ばれた。この賞を励みに、これからも楽しく読みやすい紙面作りを心がけていきたいと思う。

本校では、行事等案内のため、テレホンサービスを行っています。昼間・夜間を問わず利用できます。
電話番号は、右記のとおりです。 TEL 0944-52-1313

スタートと同時に久留米高専チームの飛ばしたフリスビーはVホールへと吸い込まれた。開始わずか3秒、しばらく何が起こったかわからなかった。その後、製作中の苦労や幾日もの徹夜などが思い出され、呆然としていた。今更ながら設計のこと、製作の遅さなど悔やまれるが、自分なりに懸命にした設計製作によって得たものも大きかった。ご指導、ご助言いただいた方々ありがとうございました。

(SNIPER号責任者 5M 野中成継)

プログラミング

コンテスト

10月8、9日富山市において「全国高等専門学校第5回プログラミングコンテスト」の本選大会が「課題部門」と「自由部門」、そして今回新たに設けられた「競技部門」の3部門で開催されました。本校電子情報工学科4年有志は競技部門に「The Pocket Surveyor」で出場しました。

今年の競技部門は、GPS (Global Positioning System) とコンピュータを用い、屋外の指定された領域の面積を計測するもので、各高専から出場の32チームがその精度と計測時間を競い合いました。他チームが重いノートパソコンなどで出場する中、唯一ポケコンを中心とするシステムで出場した本校チームは、軽くて小さなシステムの機動力を武器に、トラブルもなくスムーズに計測を進め、32チーム中16位という成績をおさめました。



有明高専だより 第84号
平成6年11月15日

編集
有明高専広報委員会
発行
有明工業高等専門学校
〒836 大牟田市東萩尾町150
TEL 0944-53-1011(代)